

中小企業診断士の資格取得

第2期OB 中島 崇浩

◆中小企業診断士受験のきっかけ

2012年4月、私の勤務先で資格取得等の自己啓発を支援する教育基金が発足しました。私はこの教育基金制度の援助を受け、同年8月より中小企業診断士の資格取得を目指して勉強を始めました。

中小企業診断士とは、中小企業の経営診断（コンサルティング）業務を行う国家資格であり、税理士や不動産鑑定士等の他の『士業』と呼ばれる資格と比較して独立開業率が低いことが特徴です。中小企業診断士資格保有者のうち独立開業者は3割弱で、大多数は『企業内診断士』として独立開業せずに勤務先に留まります。その理由は、中小企業への経営診断業務は中小企業診断士の独占業務ではなく無資格で実施することができ、また、試験内容が経営やマーケティング全般に及ぶため、大多数がビジネスパーソンとしての資質向上・自己啓発を目的に取得するからです。

私も大多数の受験者と同様、自己啓発を目的に資格取得を目指しました。試験科目は、経済・経営・マーケティング・会計等、商学部で学んだ範囲がほとんどで、10年近く社会人をしてきた今だからこそ、改めて現在の仕事と関連づけながら学生時代とは違った視点で知識の取得・復習ができることに魅力を感じました。

◆中小企業診断士の試験勉強

中小企業診断士の資格取得には、一次試験・二次試験に合格する必要があります。一次・二次ともに試験の合格率は約20%前後と低く、本格的に勉強するため毎週土曜日を中心に資格の予備校に通いました。

一次試験は『経済学』、『経営情報システム』、『経営法務』、『企業経営理論』、『運営管理』、『財務・会計』、『中小企業経営・中小企業政策』の7科目があります。中でも『経済学』、『企業経営理論（経営戦略・経営組織・マーケティング等）』、『財務・会計』は商学部で学んだ内容と重なる部分が多く、また『運営管理（生産管理・生産技術・店舗運営・ロジスティック等）』は現在の業務と関連する部分が多いことから、これらの科目は比較的容易に学習することができました。

二次試験は、事例問題（ケース）が4問出題されます。一次試験が知識のインプットを問う試験であるのに対し、二次試験では、架空の中小企業の経営改善をテーマにした事例の解決を通して知識のアウトプットを問う試験となります。4問の事例にはそれぞれ出題のテーマがあり、『組織・人事に関する事例』、『マーケティングに関する事例』、『生産管理に関する事例』、『財務・会計に関する事例』をそれぞれ80分で解く内容となります。試験勉強をしていると、小野ゼミの現役時代にケースメソッドを数多くこなしたこと

が思い出されました。平日は仕事優先でしたが、昨年10月の二次筆記試験まで約1年間余の土日のほとんどを勉強に費やし、昨年12月の面接試験を経て、無事合格証書を受け取ることができました。

◆今後の資格の活用

試験合格後、正式に中小企業診断士として登録するためには、15日間の実務補習を受ける必要があります。実務補習は4名程度の実務補習生で1つの班を作り、実際に中小企業の経営診断を実施します。また、登録後は東京都中小企業診断士協会の100以上ある研究会の中から自分に合う研究会（大学のゼミのようなもの）を選んで入会することができます。実務補習や研究会を通して、中小企業診断士としての人脈を広げ自己研鑽を積んでいきたいと考えています。

現時点で中小企業診断士として独立することは考えていませんが、この資格を現在の仕事にどう活かすかが課題と考えています。今まで見えていなかったアプローチで業務上の課題を解決ができればと思います。また、せっかく仕事をしながら1年間勉強をする生活リズムが身に付いたので、この生活リズムを維持して、簿記や会計等の他の資格へのチャレンジも考えています。



中小企業診断士試験 合格証書